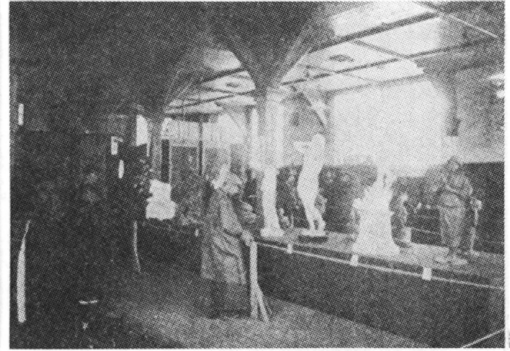


同 右



所蔵参考品陳列場

ップに採り、之を濃淡種々に染めて「ハーモニー」の多くの場合を示せり。

- (5) 「スタデー・オブ・カラー」色の研究は、亦圖畫科を通じて主要なる事業の一たるを以て、多くは生徒各自にて着色したる表を掲げ、寒色と熱色との對照色の強さを、黒色にて表はしたるものを始めとし、標準色、及び「チント」、「シェード」を並列せる表、原色の強さが等しき強さに至る段階、及其對照の配列等甚だ多し。
- (6) 「シルエット」兒童の技工に適し、且つ簡易の手法をもて、正確なる「アウトライン」の觀念を與ふべきものなり。

### ③ 金工科制度改正願

明治三十八年三月の本校規則大改正の際に彫金科と鍛金科が合併して金工科となつたが、合併授業に何らかの支障があつたらしく、同四十一年に同科四年生から一年生までのほぼ全員による左記のような制度改正願が正木直彦校長に提出された。原本は墨書。本学彫金教官室保管。この嘆願書の成果を資料的に確かめることはできないが、合併授業に問題があつたことは推測できよう。大正十年ころから金工科は彫金部と鍛金部に分けて授業を行ふようになる。

#### 金工科制度改正御願

現今ノ金工科御規定ヲ改タメテ彫金科志望及鍛金科志望ノ二部ニ分チ各々其ノ一ヲ專修スルコト、シ併セテ相互ノ概念ヲ得ル爲メ二年程度マデ兼修セシメラレ度此ノ段生等一同以連署及御願候也  
明治四十一年六月八日

神谷 甚一郎	堀井 董
岩崎 文七	佐藤 省吾
蒲生 鐵男	原田 縫吉
チャルン・スラナート	海野 清
黒川 廣吉	小糸 源太郎
嶋田 健二	漆間 宏
寺嶋 恕	根尾 謙児
田中 賑吉	神矢 教親
上杉 勝徳	野口 六三
三好 眞長	

東京美術學校長正木直彦殿

#### ④ 東京美術學校入學案内

本校の組織、規則、教育内容等は毎年刊行の『東京美術學校一覽』に記載され、公表されているが、民間発行の受験生向け学校案内のなかには予備校、各科の募集状況、学費その他、『一覽』では窺い知れない要素をも含めて本校の特色を端的に紹介しているものがある。左記はその一例である。

#### 美術學校

〔目次、「日本唯一の學校、「八分科の各特色」は省略。〕

#### 入學の研究

學年は九月十一日に始つて、七月十日に終る。そして一學年はこれを三學期に分けてある。

第一學期（自九月十一日至十二月二十四日）

第二學期（自一月八日至三月三十一日）

第三學期（自四月八日至七月十日）

併し、入學期は毎年四月の初頭、それから七月十日迄の一學期間を、豫備科期としてある。（この期間を無事に過ぎると、本科の第一學期が初めて来る。それから四年間<sup>おつとほ</sup>追通しで、五年目は卒業期と稱し、第貳學期限りで卒業する事になるのだ。）それで、<sup>たゞ</sup>假令三月の試験に合格して、豫備科に入學を許されるにしても、決して全くの安心は出来ぬ。其の一學期間の實技成績の良否は、一般の豫備科生に取つて、實に死活の運命の決勝點である。烟眼

なる受持教師は、其間に、彼等の實際の技倆から、將來發達の有無に至る迄能く／＼見抜いて、六月の試験を待つ迄もなく、早く既に心で及第の鑑定を付けて了ふ。

だが、それは兎も角として、本科入學に就ての研究が何よりも肝腎である。

先づ、本科に入學することの出来る者は、年齢滿十七歳以上滿二十六年以下の男子で、品行身體共に善良でなければならぬ。

次は、左の資格の何れか一つが必要だ。

- 一 官公立中學校又は認定私立中學校卒業者
- 二 専門學校入學檢定試験合格者
- 三 認定工業學校卒業者

但し、右に掲げた學校に在學中の生徒で、三月の末に卒業すると云ふ慥かな證明のあるものに限る、特に卒業生同様に看做して取扱ふと云ふ規則だから、この學校の入學期迄に、正式の卒業が出来ずとも差支へない。尤も、昨年の末であつたか、文部省から各地方廳へ通牒を發して、中學校の學年試験は、第五學年の生徒に限り、三月上旬以後に便宜繰上げて好いと云ふ事になつたから、此邊は餘程便利になつたと思ふ。

應募の手續は別に詳しく説明する迄もないだらう。即ち一定の書式に準じた入學願書に、學業履歷書、卒業證明書、又は試験檢定合格證書、醫師の身體検査書、戸籍抄本、志願當時よりさかのぼる一年以内に撮影した手札形寫眞（但し、半身脱帽で、裏面に氏名並びに撮影年月日明記の事）等を添え、それに、金貳圓を手數料として納付すれば好い。本年、官報（一月十五日）で發表に